

後援会長挨拶

なぞなぞ

本年度、後援会長を仰せつかりました伊藤です。

保護者の皆様、大学関係の皆様には、後援会に対し日頃から多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

後援会事務局からの原稿依頼には、「後援会の会員に対するメッセージ、学生時代の思い出、今の学生に期待すること等」と記載されておりますが、もとより浅学菲才の身、文才更に恵まれずとあっては、格調高き挨拶文など思いもよらず、昨年同様、雑文を書き散らすことで紙幅を埋めることをご容赦ください。

小学校に上がるころ、子供たちは「なぞなぞ」に凝るようです。頓智の面白さが理解できるようになる年頃なのでしょうか、親に「なぞなぞごっこ」を迫ります。思うに、答えに窮する親の姿を見て、日ごろの小言に対する憂さを晴らそうとの魂胆でしょう。しかし、こちら「通ってきた道」ですから、ほとんどの問題の答えは分かります。決して子供に花を持たせるようなことはしません。家内に「大人げない」と言われようと、子供に「降参」というのは男のプライドが許しません。

すると、こんな問題が出てきました。

「私たちは、何故、毎日学校に行くのでしょうか？」

はて、私たちの時代にこのような問題はありませんでした。さすがに答えに窮しておりますと、子供は満面の笑みを浮かべて「もう降参?教えてあげようか」と言いつつ得意げに一言、

「答えはね、学校が家に来てくれないから!」

ここで怒るのはまさに「大人げない」ので苦笑するしかありませんが、一方でなるほど感心したのも事実です。「何故、学校に行くのか?」と問われれば、学校に行く「目的」を答えなければならないというのが大人の発想です。そして、この発想に囚われる限りこの答えは出てきません。子供たちも成長して「なぞなぞごっこ」とも縁がなくなりましたが、遠い昔の一場面です。

誠に微力ながら、今後とも後援会の運営・発展に尽力させていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



東京都市大学後援会
平成27年度会長

伊藤 秀樹